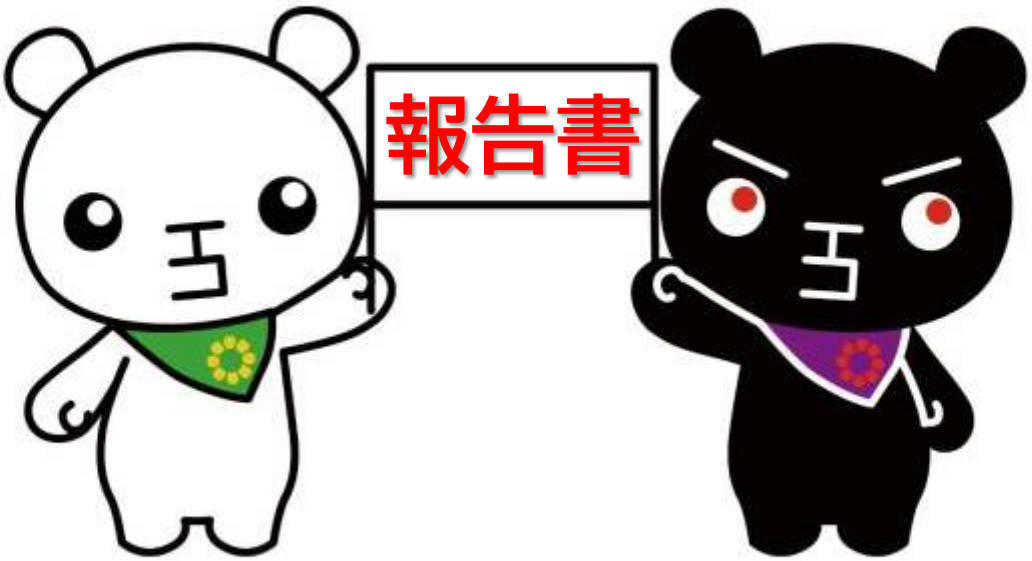
都市ブランド教育委員会
令和８年11月５日
教　育　委　員　会

令和8年度
全国学力・学習状況調査



北九州市環境マスコットキャラクター
ていたん＆ブラックていたん
©ていたん＆ブラックていたん、北九州市

北九州市教育委員会

目　　次

令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書

１　学力状況調査結果

○　令和８年度全国学力・学習状況調査結果（概況）・・・・・・・・３

○　学力調査結果（経年推移）※各教科・・・・・・・・・・・・・・４

２　各教科の分析

（１）　小学校国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

（２）　小学校算数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

（３）　中学校国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

（４）　中学校数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

（５）　中学校英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

３　学習状況調査結果・分析

（１）　学習状況調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

（２）　児童生徒質問調査の回答結果の経年推移・・・・・・・・・・18

４　今後の取組み

○　今後の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

1 学力状況調査結果



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

令和8年度全国学力・学習状況調査結果（概況）　【別紙】

1　実施学年・調査内容

◇　実施学年　市立小学校（126校）・関係特別支援学校（2校）　第6学年
　　市立中学校（　62校）・関係特別支援学校（3校）　第3学年

◇　調査内容　① 教科に関する調査　国語、算数・数学、英語（中学校のみ）
　　② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

2　調査集計者数　児童数　6,827人　　生徒数　6,451人　※各校種の最小値

3　調　　査　　日　令和8年4月23日（木）　※　オンライン調査については文科省が指定した日程

主な結果

令和8年度	小学校　国語			小学校　算数		
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合
本市平均	7.4 / 13 問	57%	93%	8.2 / 16 問	51%	91%
全国平均	7.9 / 13 問	61%		9.0 / 16 問	56%	

令和8年度	中学校　国語			中学校　数学			中学校　英語（3技能）	
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	平均IRTスコア	割合
本市平均	9.3 / 15 問	62%	97%	8.6 / 16 問	54%	95%	478	96%
全国平均	9.6 / 15 問	64%		9.1 / 16 問	57%		499	

「割合」・・・全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合

【分析結果1（国語）】
○ 「思考・判断・表現」の「書くこと」の問題に改善がみられる。（中学校：昨年度比＋0.6pt）
○ 記述式の問題に改善がみられる。（小学校：昨年度比＋0.9pt、中学校：昨年度比＋0.1pt）
● 「話すこと・聞くこと」の問題に、課題がみられる。（小学校：昨年度比－1.2pt、中学校：昨年度比－1.5pt）

【分析結果2（算数・数学）】
○ 「数と式」「関数」の問題に改善がみられる。（中学校：昨年度比「数と式」＋2.3pt、「関数」＋0.9pt）
○ 「思考・判断・表現」の問題に改善がみられる。（中学校：昨年度比＋0.4pt）
● 「図形」の問題に課題がみられる。（小学校：昨年度比－2.2pt、中学校：昨年度比－2.0pt）

【分析結果3（英語）】
○ 「書くこと」のすべての問題において、無回答率が全国平均を下回っている。
● 「読むこと」、「書くこと」の公開問題における平均正答数に課題がみられる。（全国比－0.2問）
※令和8年度より測定指標が変更となり、経年比較はできない。

【分析結果4（児童生徒質問調査）】
○ 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」という調査で、「全くしない」と回答した児童生徒の割合に改善がみられる。（小学校：昨年度比－12.5pt、中学校：昨年度比－14.7pt）
○ 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか」という調査で、「1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合に改善がみられる。
（小学校：昨年度比：±0pt、中学校：昨年度比＋4.8pt）
○ 「小学5年生（中学1，2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」という調査で、「週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合に改善がみられる。
（小学校：昨年度比＋4.8pt、中学校：昨年度比＋8.7pt）
○ 「将来の夢や目標を持っているか」という調査で、肯定的な回答をした児童生徒の割合に改善がみられる。
（小学校：昨年度比＋0.6pt、中学校：昨年度比：＋1.5pt）

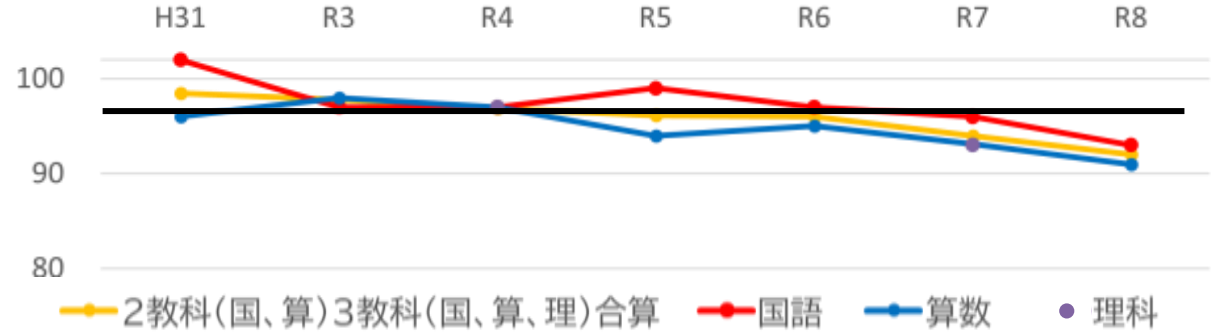
○改善がみられた項目　●課題がみられた項目

【今後の方向性】
1　AI型学習アプリ「Qubena」の活用
・ 一人ひとりの習熟度やペースに応じた個別最適な学びにより、学習習慣の確立と基礎学力の定着を目指す。
・ 学習ログの見方や分析・指導への活かし方を伝えるため、訪問や相談対応等による学校への伴走支援を行う。
2　学校における読書活動の推進（読書活動推進プロジェクト等）
3　「主体的・対話的で深い学び」の実装を目指した授業改善の推進
・ 生成AIパイロット校事業やマナビット・リーディング事業、全国学力・学習状況調査結果の各校での主体的な分析・研修を通して、授業改善を推進する。

学力調査結果（経年推移） ※各教科

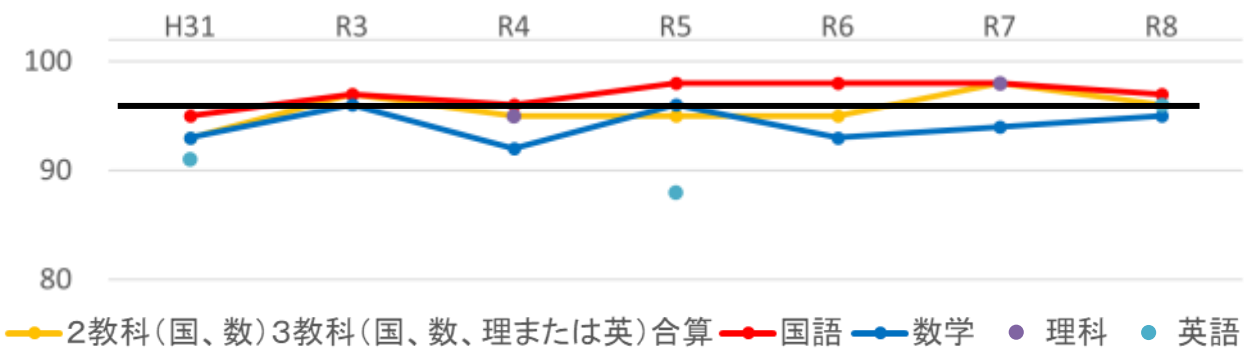
■ 全国平均正答率・IRTスコアに対する割合（平成31年度～令和8年度）

小学校 （国語、算数、理科(H27、30、R4、R7のみ） 合算）



※R7理科、R8英語はIRTスコアをもとに計算したもののため、経年比較はできない

中学校 （国語、数学、理科(R4、R7のみ）、英語(H31、R5、R8のみ)合算）



小学校		国語	算数	理科	合計
R5年度	本市	66	59		125
	全国	67	63		130
	対全国比	99%	94%		96%
R6年度	本市	66	60		126
	全国	68	63		131
	対全国比	97%	95%		96%
R7年度	本市	64	54	53	171
	全国	67	58	57	182
	対全国比	96%	93%	93%	94%
R8年度	本市	57	51		108
	全国	61	56		117
	対全国比	93%	91%		92%

中学校		国語	数学	理科	英語	合計
R5年度	本市	69	49		40	158
	全国	70	51		45	166
	対全国比	98%	96%		88%	95%
R6年度	本市	57	49			106
	全国	58	53			111
	対全国比	98%	93%			95%
R7年度	本市	53	45	492		590
	全国	54	48	503		605
	対全国比	98%	94%	98%		98%
R8年度	本市	62	54		478	594
	全国	64	57		499	620
	対全国比	97%	95%		96%	96%

2 各教科の分析



©ていたん＆ブラックていたん、北九州市

(1)小学校国語

令和8年度　全国学力・学習状況調査　結果[小学校　国語]

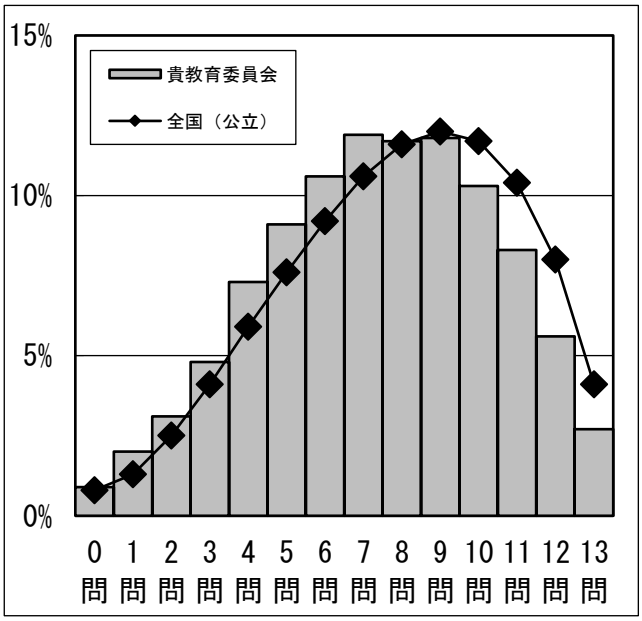
＜集計値＞

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,827	7.4 / 13	57	8.0	3.0
全国(公立)	922,411	7.9 / 13	60.9	8.0	3.0

＜区分別平均正答率の状況＞

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 北九州市	平均正答率(%) 全国(公立)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	62.9	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	47.7	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.6	65.8
		B 書くこと	2	41.3	45.7
		C 読むこと	2	62.8	65.9
評価の観点		知識・技能	6	57.8	62.0
		思考・判断・表現	7	56.1	60.1
問題形式		選択式	9	57.6	61.9
		短答式	2	59.1	62.6
		記述式	2	51.7	54.9

＜正答数分布グラフ＞



＜資料から分かる本市の状況＞
・全体の状況
　正答数6～10問の児童の割合が多く、特に正答数7問の児童が最も多い分布となっている。
・学習指導要領の内容別傾向
　「読むこと」の平均正答率は62.8%と最も高い一方、「書くこと」は41.3%であった。指導要領の内容では「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られる(全国差 -4.6pt)。
・観点別傾向
　「知識・技能」と「思考・判断・表現」の平均正答率に大きな差はない。

＜成果＞
〇高い学習意欲と授業理解度
　質問紙において「国語の勉強が得意」と回答した児童の割合は全国比+7.6pt、「国語の授業はよく分かる」と回答した児童の割合は全国比+0.4ptと、全国平均を上回っている。
〇記述問題への粘り強い取組み
　記述式問題の全国差が改善傾向(R7: -4.1pt ➔ R8: -3.9pt)にあり、最後まで粘り強く考え、自分の考えを文章にまとめる力が伸びている。
→　授業への理解度や得意意識の高まり、主体的・意欲的に学ぶ姿勢が育ち、これまでの授業改善の成果が表れている。

＜課題＞
●「情報同士の関連付け」 図や表を活用し、語句と語句の関係を正しく読み取り、理解・表現する力
●「引用と書き方の工夫」 集めた情報を適切に引用し、相手に伝わるように表現を工夫する力
→　**目的や条件に応じて根拠を明らかにしながら、自らの考えを形成・記述する**言語活動の充実をさらに図っていく。

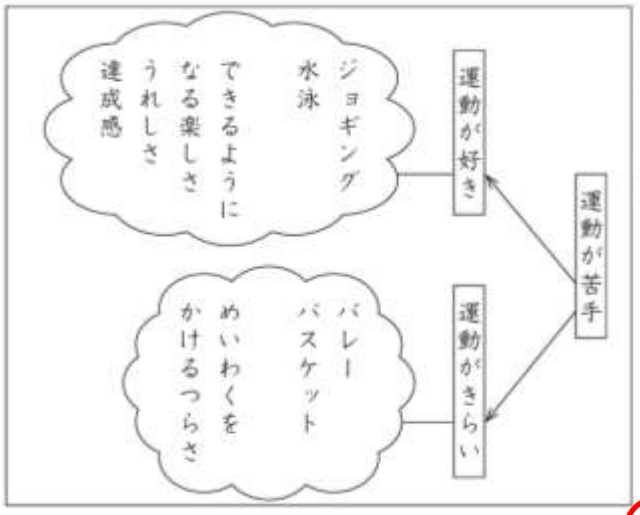
(1)小学校国語

＜特に課題がみられた問題＞

出題の趣旨
　情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

二　林さんは、【文章】を読んで、筆者の考えを理解するために、―部①、②、③について【林さんのメモ】のように整理しました。林さんはどのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【林さんのメモ】



①　「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、筆者の経験したことと結び付けて整理している。

②　「苦手」と「きらい」の場合に矢印で分けて、自分の経験したことと結び付けて整理している。

③　「苦手」、「好き」、「きらい」の順に矢印でつなげて、筆者の経験したことと結び付けて整理している。

④　「苦手」、「好き」、「きらい」の順に矢印でつなげて、自分の経験したことと結び付けて整理している。

解答類型	1	2	3	4
北九州市	**50.5**	23.6	15.7	7.6
全国	**55.6**	21.2	13.8	6.7

＜学習するときのポイント＞
　この問題は、林さんが、【文章】を読んで筆者の考えを理解するために作成したメモについて、正しく説明している選択肢を選ぶものです。
　メモを見ると、「運動が苦手」という大きな言葉から、「運動が好き」と「運動がきらい」という２つの方向へ矢印が伸び、筆者の具体的な経験やその時の気持ちがまとめられていることが分かります。
　長い文章を読んだときには、「頭の中で整理すること」や「図や表に置き換えてまとめること」が大切です。複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図示することによって、文章の理解を深めることにつながります。その際は、林さんのようにノートを使ってメモをまとめたり、文章に直接書き込んだり、自分にあった方法で整理することが大切です。

(2)小学校算数

令和8年度　全国学力・学習状況調査　結果[小学校　算数]

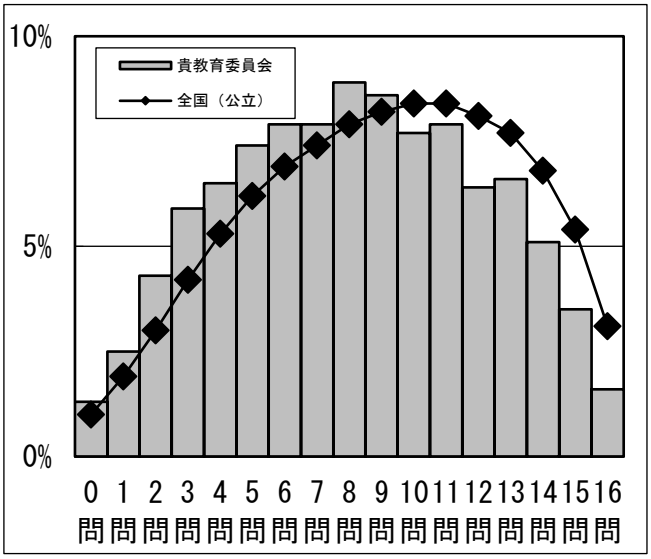
＜集計値＞

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,831	8.2 / 16	51	8.0	3.9
全国(公立)	922,778	9.0 / 16	56.4	9.0	4.0

＜区分別平均正答率の状況＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 北九州市	平均正答率(%) 全国(公立)
学習指導要領の内容	A 数と計算	8	55.9	61.1
	B 図形	4	48.8	55.3
	C 測定	1	74.7	78.1
	C 変化と関係	3	36.6	41.1
	D データの活用	4	42.7	48.6
評価の観点	知識・技能	12	54.9	60.1
	思考・判断・表現	4	40.1	45.4
問題形式	選択式	5	51.2	56.0
	短答式	8	54.6	59.7
	記述式	3	42.2	48.5

＜正答数分布グラフ＞



＜資料から分かる本市の状況＞
・全体の状況
　正答数6～11問の児童の割合が多く、特に正答数が8問の児童が最も多くなっている。
・学習指導要領の内容別傾向
　「測定」の平均正答率が74．7%と最も高く、「データの活用」および「変化と関係」が低い傾向にある。「図形」に課題がみられる(全国比－6.5pt)。

＜成果＞
〇記述問題への粘り強い取組み
　質問調査において、「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題に最後まで書こうとした」と回答した児童の割合は全国比+0.4ptと改善がみられる。また、平均無解答率も2.84%(前年度3.74%)と改善した。
〇説明活動の広がりと試行錯誤する姿勢
　質問紙において、「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行った」と回答した児童の割合は、全国を上回っている。(全国比+2.0pt)
→　端末等の活用や説明活動など、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組んでおり、児童の学びへの意欲が高まっている。今後も、言葉・式・図等を関連付け、互いに考えを分かりやすく伝える力を育んでいく。

＜課題＞
●「条件の選択・抽出」 図・表・文章等の**複数の情報から読み取り**、**目的に応じて必要な条件を適切に選択**する力
●「根拠を明確にした説明・記述」 選んだ条件をもとに、**理由や求め方を根拠(言葉・数・式)を明確にして説明・記述**する力
→　言葉・式・図等を関連付けながら考えを整理・記述する場面や、**根拠をもって説明し合う**数学的活動の充実をさらに図っていく。

(2)小学校算数

＜特に課題がみられた問題＞

出題の趣旨

日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

(4) はやとさんは、**図2**のような直方体の箱に入ったおかしを宅配便で送ろうとしています。

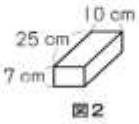


図2

A社の宅配便で送るとき、直方体の荷物の送料は、3辺の長さの合計で決まります。

3辺の長さの合計を求める式

（縦の長さ）＋（横の長さ）＋（高さ）

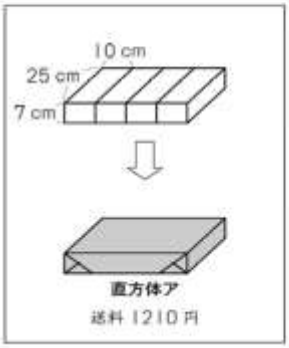
3辺の長さの合計が100 cm以下の荷物の送料は、下の表のとおりです。

A社の送料

3辺の長さの合計	送料
60 cm以下	920円
60 cmより大きく80 cm以下	1210円
80 cmより大きく100 cm以下	1510円

図2のおかし1箱の場合、3辺の長さの合計は、25＋10＋7＝42で42 cmです。42 cmは60 cm以下なので、送料は920円です。

はやとさんは、**図2**のおかし4箱をまとめて紙で包み、1つの直方体の荷物にして送ります。まとめ方によって送料にちがいがあるかを調べるために、下の2つのまとめ方でできる**直方体ア**と**直方体イ**の送料を求めることにしました。



直方体アの送料は1210円です。

直方体イの送料は何円ですか。

直方体イの送料の求め方を

・3辺のそれぞれの長さ（縦の長さ、横の長さ、高さ）

・3辺の長さの合計

がわかるようにして、数や言葉を使って書きましょう。

また、送料が何円になるのかも書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。

（正答の条件）
次の①、②の全てを書き、送料を９２０（円）と書いている。
① 直方体イの３辺のそれぞれの長さ（縦の長さ、横の長さ、高さ）を表す数や言葉
② 直方体イの３辺の長さの合計を表す数や言葉

		求め方	送料
1	◎	①、②の全てを書いているもの	９２０（円） と解答しているもの
2		①又は②を書いているもの	
3		図２の直方体の箱の３辺のそれぞれの長さや３辺の長さの合計を書いているもの	
4		類型１から類型３以外の解答 無解答	
5		①、②の全てを書いているもの ①又は②を書いているもの	９２０（円） 以外を解答しているもの 無解答
6		図２の直方体の箱の３辺のそれぞれの長さや３辺の長さの合計を書いているもの	
7		直方体アと直方体イは図２の直方体の箱がどちらも４箱であるため、送料が同じであることを書いているもの	
９９		上記以外の解答	
０		無解答	

解答類型	①	2	3	4	5	6	7	99	無回答
北九州市	**38.3**	6.3	10.1	6.6	4.9	15.1	1.7	12.1	5.0
全国	**45.2**	6.2	7.6	5.0	5.6	13.6	1.5	9.4	5.8

＜学習するときのポイント＞

直方体の「縦・横・高さ」と「送料表」という複数の条件を組み合わせて考える問題です。お菓子4箱をまとめた直方体イが、元の箱のどの辺と対応しているか（構成要素）に着目し、3辺の長さ（25cm、20cm、14cm）とその合計（59cm）を正しく導き出します。

単に「4箱分だから4倍する（誤答例：42×4）」といった数値の計算だけに終始せず、箱の並べ方によって「どの辺の長さが変わるのか」を図や直方体イと関連付けて捉えることが大切です。直方体イの「①3辺それぞれの長さ」「②3辺の長さの合計」「③条件表との照合と送料（920円）」という求める手順と根拠を、言葉や数、式を用いて順序立てて考え記述することが大切です。

（3）中学校国語

令和8年度　全国学力・学習状況調査　結果[中学校　国語]

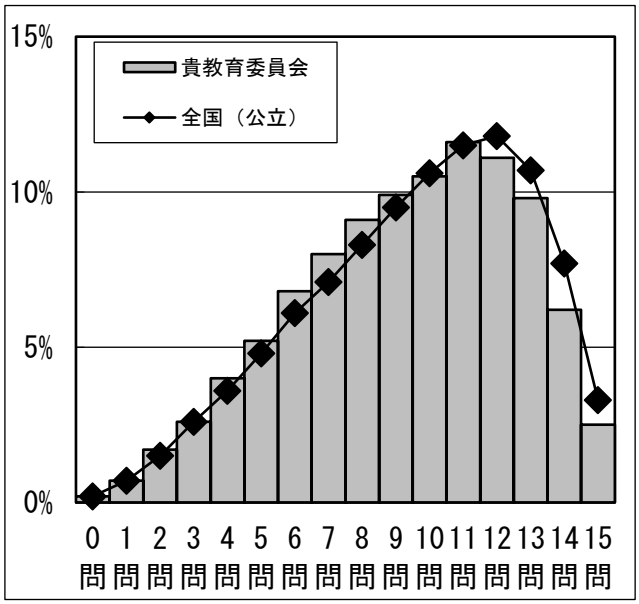
＜集計値＞

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,576	9.3 / 15	62	10.0	3.3
全国(公立)	841,873	9.6 / 15	63.9	10.0	3.3

＜区分別平均正答率の状況＞

分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 北九州市	平均正答率(%) 全国(公立)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.1	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	68.9	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	61.7	63.9
		B　書くこと	3	66.4	67.4
		C　読むこと	3	59.1	59.7
評価の観点		知識・技能	6	61.6	64.2
		思考・判断・表現	9	62.4	63.7
問題形式		選択式	9	70.5	72.7
		短答式	3	54.5	55.8
		記述式	3	44.4	45.5

＜正当数分布グラフ＞



＜資料から分かる本市の状況＞
・全体の状況
　正答数9～13問の生徒の割合が多く、特に正答数11問の生徒が最も多い分布となっている。
・学習指導要領の内容別傾向
　「読むこと」は全国平均とほぼ同程度であり（全国比－0.6pt）、「書くこと」も全国平均との差は小さい（全国比－1.0pt）。
・観点・問題形式別傾向
　「思考・判断・表現」と記述式問題は、全国平均との差が小さい（全国比－1.3pt、－1.1pt）。

＜成果＞
〇「書くこと」の改善
　「書くこと」は、全国との差が昨年度より縮小している（昨年度比＋0.6pt）。また、記述式問題についても改善が見られる（昨年度比＋0.1pt）。
〇国語への高い興味・関心
　質問紙において、「国語の勉強が好き」と回答した生徒の割合は61.9%で、全国平均を上回っている（全国比＋4.7pt）。また、「国語で学習したことは将来役に立つ」と回答した生徒の割合も多い（全国比＋1.7pt）。
→ 国語への興味・関心の高さを生かしながら、自分の考えを適切に表現する力をさらに伸ばす。

＜課題＞
●「話の内容を捉える」 必要に応じて質問しながら、話の**内容を的確に捉え、解釈する**力。
●「自分の表現を見直す」 読み手からの助言を踏まえ、表現のよい点や改善点を見いだし、次の表現に生かす力。
→ 目的や相手を意識して内容を的確に捉え、他者との交流を通して、**根拠をもとに**自分の表現を吟味・改善する言語活動の充実をさらに図っていく。

＜特に課題がみられた問題＞

出題の趣旨

表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。

四　石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。【1段落についての交流場面①】をもとにした【メモ①】の書き方を参考にしながら、【1段落についての交流場面②】をもとにして【メモ②】を書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【1段落についての交流場面②】

石井　スケッチブックを「相棒」と表現したことはどうですか。

田中　「その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田　スケッチブックは今までの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喩もあるのではないかと思いました。

【メモ②】

〈よい点や改善点〉

〈生かしたいこと〉

解答類型	①	2	3	99	無回答
北九州市	41.6	9.2	19.5	20.7	9.0
全国	45.0	9.4	17.0	17.9	10.7

1	よい点・改善点と、今後生かしたいことの両方を書いている【正答】
2	よい点・改善点は書いているが、今後生かしたいことを書けていない
3	今後生かしたいことは書いているが、交流を基にしたよい点・改善点を書けていない
99	その他の解答

＜学習するときのポイント＞

友達などからの助言を聞いて終わりにせず、「どの表現についての助言なのか」「その表現にはどのような効果があるのか」を具体的に考えることが大切です。助言の内容と、自分が実際に使った言葉や表現を結び付けて振り返ることが必要です。

また、よかった点だけでなく、よりふさわしい表現がなかったかという視点で見直します。見付けたよい点や改善点を、次に文章を書くときにどのように生かすかまで考えることで、よりよい表現につなげることができます。

令和8年度　全国学力・学習状況調査　結果[中学校　数学]

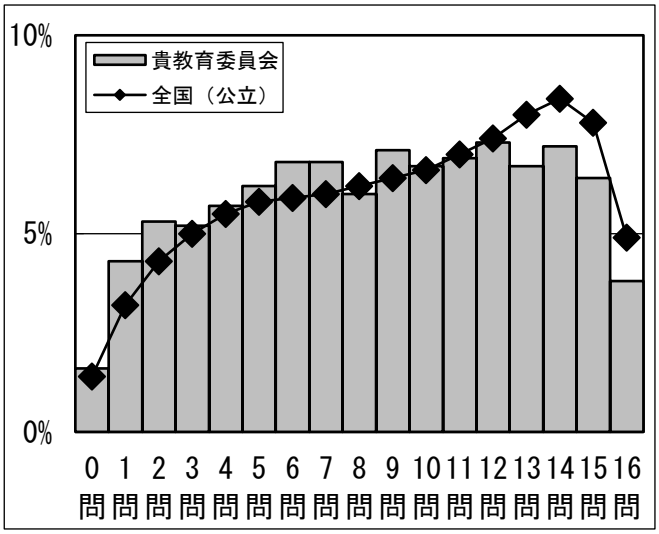
＜集計値＞

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,586	8.6 / 16	54	9.0	4.4
全国(公立)	842,491	9.1 / 16	57.0	10.0	4.5

＜区分別平均正答率の状況＞

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 北九州市	平均正答率(%) 全国(公立)
学習指導要領の内容	A　数と式	5	66.2	67.8
	B　図形	4	42.4	48.7
	C　関数	3	52.2	54.8
	D　データの活用	4	50.7	53.5
評価の観点	知識・技能	12	59.7	63.0
	思考・判断・表現	4	35.9	39.1
問題形式	選択式	3	57.1	59.3
	短答式	9	60.6	64.2
	記述式	4	35.9	39.1

＜正当数分布グラフ＞



＜資料から分かる本市の状況＞
・全体の状況
　正答数が0～3問である生徒の割合が高く、13～16問である生徒の割合が低い。
・学習指導要領の内容別傾向
　「図形」の平均正答率が42.4%と最も低い。全国との差も最も大きい(－6.3pt)。
・評価の観点の傾向
　「知識・技能」と「思考・判断・表現」(全国比－3.3pt、－3.2pt)の平均正答率に差はない。

＜成果＞
○全国差の縮小と「数と式」「関数」の改善
　全体の平均正答率の全国差は改善傾向にある(昨年度比＋0.3pt)。特に、「数と式」(R7:－3.9pt→R8:－1.6pt)、「関数」(R7:－3.5pt→R8:－2.6pt)の領域において、確実な向上がみられる。
○数学を学ぶ意義や有用感
　質問紙において、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は、全国比＋2.2ptと、全国平均を上回っている。
→　今年度は、脱・暗記重視のため、「育成する資質・能力を明確にした授業」、「数学的な見方・考え方を働かせた授業」を推進している。
→　教員対象の教科研修では、小中ともに同じテーマで行うなど、算数科とも連携して、授業改善に取り組んでいる。

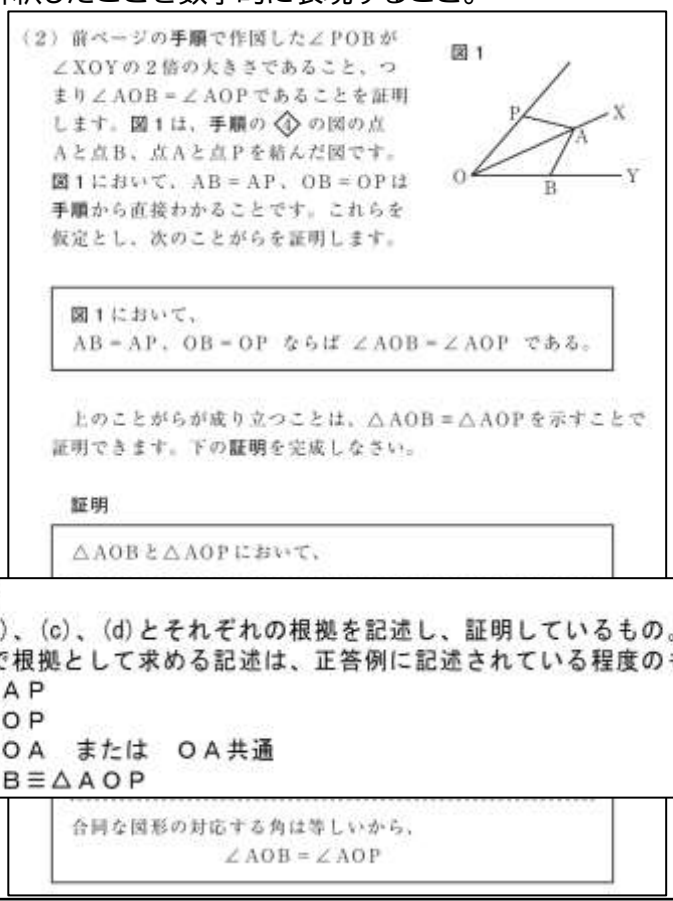
＜課題＞
●「図形領域」　昨年度から引き続き、図形領域に課題がある。
　図形を見た目で判断したり、意味理解を伴わずに丸暗記したりせず、辺の長さや角の大きさに着目して考える力、**根拠を明確にして説明する力**
→　図形領域における数学的な見方・考え方を働かせた授業改善を、算数科とも連携しながら進めていく。

（4）中学校数学

＜特に課題がみられた問題＞

【出題の趣旨】 図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- 事象の特徴を的確に捉えること。
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。
- 事象に即して解釈したことを数学的に表現すること。



（2）前ページの手順で作図した∠POBが∠XOYの2倍の大きさであること、つまり∠AOB＝∠AOPであることを証明します。図1は、手順の ④ の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図1において、AB＝AP、OB＝OPは手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図1

図1において、
AB＝AP、OB＝OP ならば ∠AOB＝∠AOP である。

上のことがらが成り立つことは、△AOB＝△AOPを示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

証明

△AOBと△AOPにおいて、

合同な図形の対応する角は等しいから、
∠AOB＝∠AOP

（正答の条件）
次の(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。
なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記述されている程度のものとする。
(a)　ＡＢ＝ＡＰ
(b)　ＯＢ＝ＯＰ
(c)　ＯＡ＝ＯＡ　または　ＯＡ共通
(d)　△ＡＯＢ≡△ＡＯＰ

1	(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述しているもの
2	(a)、(b)、(c)、(d)について記述しているが、表現が十分でないもの((a)、(b)、(c)、(d)の根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む)
3	仮定として、∠AOB＝∠AOPを用いているもの
4	(a)、(b)について記述しているもの

解答類型	①	2	3	4
北九州市	**29.8**	8.5	7.6	7.1
全国	**36.7**	8.7	7.0	6.6

※解答類型は主なものを抜粋して掲載

＜学習するときのポイント＞

図形領域を勉強するときは、図形を見た目だけで捉えるのではなく、辺の長さや角の大きさにも着目して捉えることが大切です。

例えば、「2つの図形がぴったり重なるとき、これらの図形を合同」といいますが、合同を辺や角に着目して捉えると、「対応する線分の長さは、それぞれ等しい」、「対応する角の大きさは、それぞれ等しい」ことがいえます。そのため、「線分の長さや角の大きさが等しい」ことの証明では、「三角形が合同である」ことが根拠としてよく使われます。

このように、図形領域の証明問題では、図形の辺や角に着目し、「どことどこの辺(角)が等しい」といえるのか、「なぜ等しいといえるのか(根拠)」を常に考えながら進めましょう。

平行四辺形の定義や性質、平行四辺形になるための条件なども、辺や角に着目して考えてみましょう。

（5）中学校英語

令和8年度　全国学力・学習状況調査　結果[中学校 英語]

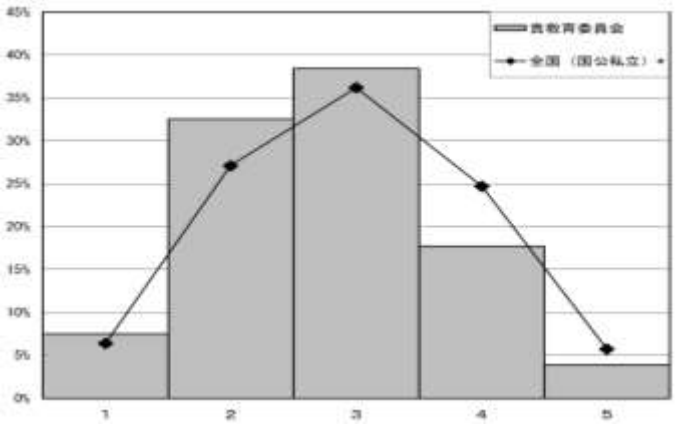
＜集計値＞

	生徒数	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
				10%	25%	50%	75%	90%
北九州市教育委員会	6,196	478	102.6	356	407	475	546	607
全国（公立・私立）	46,645	499	108.1	363	422	498	575	636

＜区分別平均正答数の状況＞

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答数（問）	
			北九州市	全国（公立）
全体		9	4.0	4.5
学習指導要領の領域	聞くこと	2	1.1	1.2
	読むこと 書くこと	5	2.3	2.6
	話すこと	2	0.5	0.7

＜IRTバンド分布グラフ＞



・ IRTとは…項目反応理論。生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
・ IRTスコアとは…IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。（平均IRTスコアは算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均を取ったものであるため、500に一致するとは限らない。）
・ パーセンタイル値とは…データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。
・ IRTバンドとは… IRTスコアを1～5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。

＜資料を踏まえた本市の状況＞
・全体の状況
3バンドの生徒が最も多く、全国と比較して、低・中位層の割合が厚い構造になっている。
・学習指導要領の領域別傾向
【読むこと】で全国平均との差が最も開いた。教科書を音読、読解するだけでは身に付かない初読のまとまりのある英文を読んで、概要や要点を把握する力の育成が必要である。
【書くこと】では、言語材料（文法）の確実な定着が必須となる。自分の考えや気持ちを表現する問題（思・判・表）に依然として課題はあるものの、同問題で全国平均を上回る問題もみられる。

＜成果＞
○ 授業改善の成果（話すこと、書くことといった「表現の領域」での力の向上）
・ 留学生としたいこと、自分の好きな人物紹介等の日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を「話す」問題で、<u>両問題県平均＋2.2ポイント</u>
・ 中学生になってからの思い出等の日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を「書く」問題で、<u>全国平均＋0.9ポイント</u>
・ 書くことの問題全てにおいて、無解答率が全国平均に比べて低い。
→令和7年度から、既習の言語材料（文法）や語彙を使用して、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通じた指導に力を入れており、その授業改善の成果が表れ始めている。

＜課題＞
●「社会的な話題における発信力」 日常的な話題にとどまらず、社会的な話題についても**<u>自分の考えや思いを英語で適切に表現する</u>**力
●「文法事項や言語の働き」 学びをもとに、**<u>目的や場面・状況に応じて</u>**正しく使い分ける力
→学習した文法や語彙をいつ、どのような場面で使用できるのかを判断したり、話題に応じて考えや気持ちを**<u>筋道を立てて</u>**伝えたりする活動を継続して行っていく。

（5）中学校英語

＜特に課題がみられた問題＞

※文部科学省の採点基準に基づき、◎を完全正答、○を正答としている。

出題の趣旨
①音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながらメイがしたことを、それぞれ英文１文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

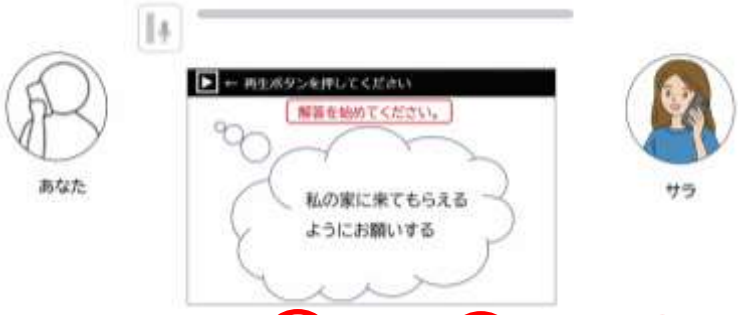
1	過去形（played）を用いて、正しい語順で回答しているもの 例 Mei played tennis.
2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、過去形（played）を用いて正しい語順で解答しているもの　例 mei played tennis.
3	余分な語などの誤りがあるが、過去形（plated）を用いて正しい語順で解答しているもの 例　Mei played the tennis.
4-6	過去形（played）を用いているが、主語や動詞、語順に誤りなどがあるもの 例　I played tennis.　Mei tennis played.　Mei was played tennis.
7	過去形(played)を用いていないが、過去のことを表現しようとしているもの 例　Mei was play tennis.
8.9	過去の表現を用いることを理解できていないもの 例　Mei plays tennis.　Mei is play tennis.
10	解答類型９までとは異なる誤りがあるもの

解答類型	①	②	③	4	5	6	7	8	9	10
北九州市	34.4	6.4	2.8	1.3	1.7	0.2	3.3	16.5	3.1	26.6
全国	40.1	9.1	3.5	1.3	1.5	0.3	2.9	14.9	2.6	20.7

出題の趣旨
②音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、昨日のことについてサラと電話で話すところです。

（２）吹き出しの中に示されている内容を、サラに英語でお願いしましょう。【解答時間　15秒】

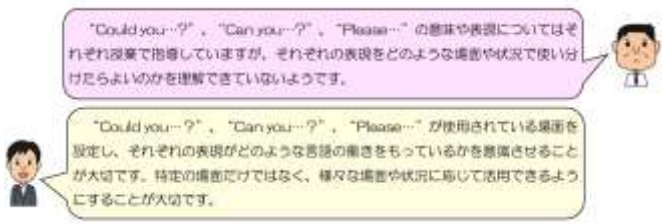


1	質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現を用いて解答しているもの
2	質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現（疑問文）を用いて解答しているもの
3	質問に対して、明日しようと思っているについて話してのみが行うことを解答しているもの
4	文法事項などに誤りがあるが、質問に対して、明日しようと思っていることについて解答しているもの
5	「ゲーム」と「明日」のみを解答しているもの
6	相手からの質問に対して、与えられた情報について解答していないもの

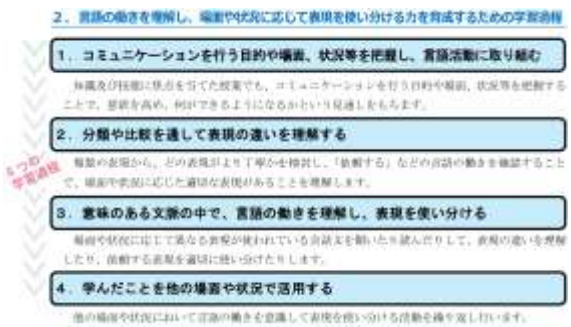
解答類型	①	②	③	4	5	6
北九州市	11.9	0.3	15.2	8.9	0.1	46.5
全国	19.0	0.5	14.0	9.4	0.3	42.0

＜学習するときのポイント＞

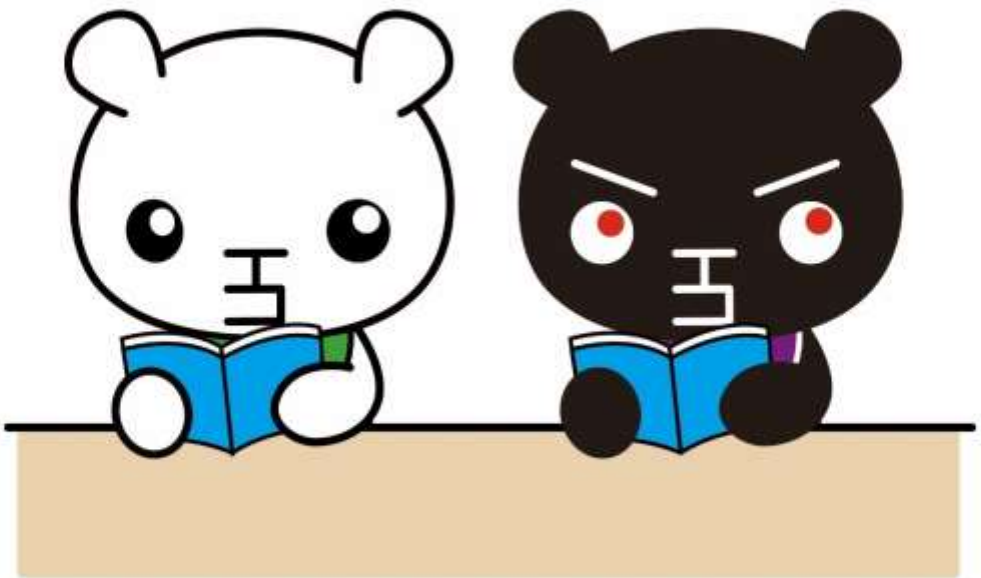
①②に共通する「語や文法事項等を正しく用いて表現する力」を育成するために
・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを設定し，言語活動と指導を繰り返しながら，表現内容の適切さや英語使用の正確さを高める。
・「語や文法指導等を正しく用いて表現する力」が身に付いたかどうか確認するために，学んだことを再度活用する場面を設定する。



※中学校英語指導事例集(国立教育政策研究所令和7年3月)「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」より転載



3 学習状況調査 結果・分析



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

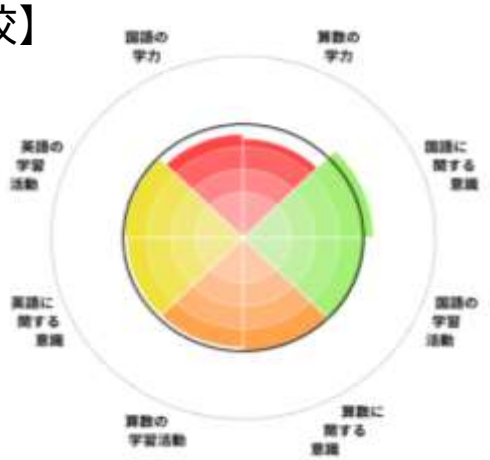
（1）学習状況調査結果

教科調査・質問調査結果状況より

＜令和8年度　本市と全国との比較＞

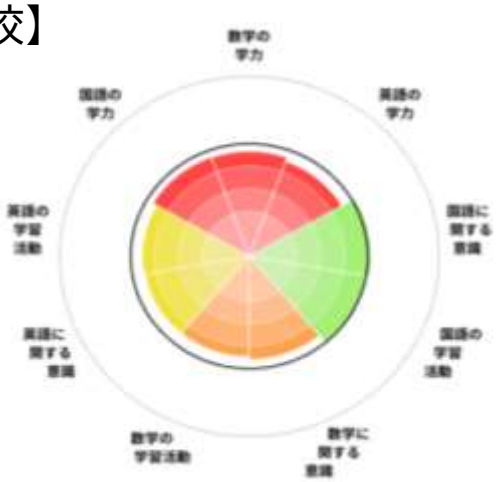
※全国平均を黒の実線で表している

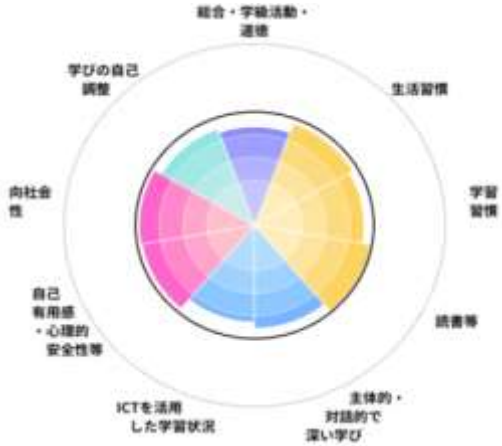
【小学校】





【中学校】





＜本市の全体傾向と分析＞

〇読書習慣の定着と国語への高い意識

「国語に関する意識」の項目は、小・中ともに全国基準を上回っている。また、「読書等」の項目も全国基準と同等である。これまで推進してきた読書活動が成果として表れており、学びの基盤が確実に定着している。

〇ICT活用の広まり・定着

「ICTを活用した学習状況」の項目が小学校において、全国基準を大きく上回っており、一人一台端末が、日常的な学習ツールとして定着している。中学校の数値にはまだ課題がみられるものの、授業でのICT等の活用頻度は大幅に増加しており、小学校での活用習慣が、中学校へと続いている。

〇授業への前向きな姿勢

「主体的・対話的で深い学び」や「総合・学級活動・道徳」の項目が、小学校において全国基準と同程度であり、子どもたちが意欲的に授業や学校生活に取り組んでいる。中学校の数値にはまだ課題がみられるものの、「国語に関する意識、国語の学習活動」は全国基準を上回っており、国語科を中心に「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が着実に浸透しつつある。

〇豊かな人間性と社会性の高まり

「向社会性等」の項目が、全国基準と同程度である。困っている人を進んで助ける思いやりや、いじめを許さない強い規範意識、社会や地域の役に立ちたいという前向きな意識が育っている。

●「生活習慣」の項目は、小・中ともに全国基準を下回っており、特に小学校ではその差が大きい。また、「学習習慣」の項目は、昨年度と比べて改善しているものの、全国基準にはあと一歩届いていない。
→学力定着の土台ともなる、学習習慣の定着や生活リズムの改善への取組みが重要である。

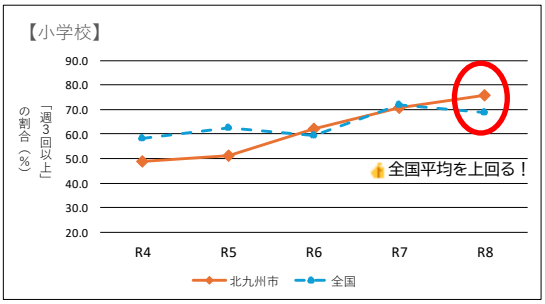
質問項目の一部の経年変化を、次ページにグラフでまとめています。

（2）児童生徒質問調査の回答結果の経年推移

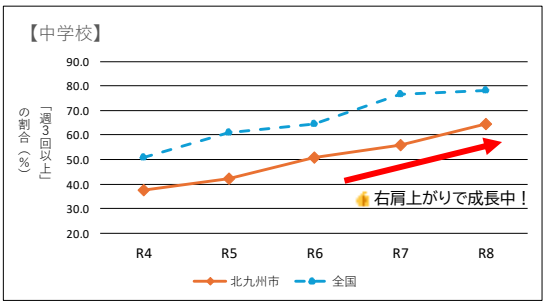
ICTの活用について

【質問】５年生までに〔1,2年生のときに〕受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	48.9	51.2	62.3	70.8	75.6
全国	58.2	62.4	59.5	71.7	68.8



	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	37.5	42.0	50.7	55.8	64.5
全国	50.9	61.1	64.4	76.5	78.2

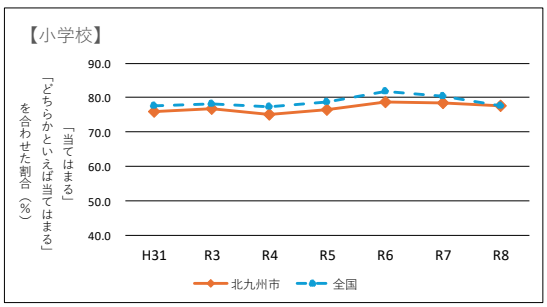


○ 一人一台タブレットが「毎日の学習の道具」に！
調べて情報を整理したり、友達の意見をリアルタイムで共有したり、 ICT機器を道具として日常的に活用しています。AI型学習アプリ「Qubena（キュビナ）」の活用も進んでおり、毎日の学びを深める道具の一つとして、一人ひとりの学びをしっかりと支えています。

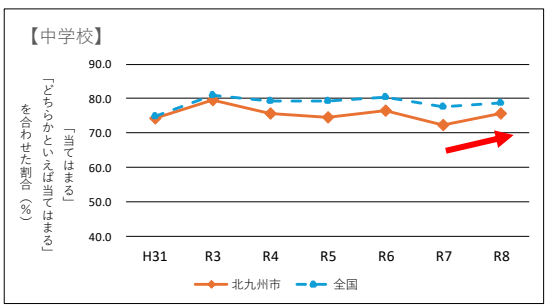
授業について

【質問】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	75.9	76.9	75.0	76.4	78.6	78.4	77.6
全国	77.7	78.2	77.3	78.8	81.9	80.3	77.6

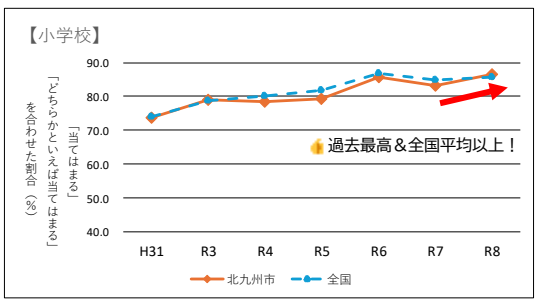


	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	74.3	79.6	75.7	74.4	76.5	72.2	75.5
全国	74.8	81.0	79.2	79.2	80.3	77.7	78.8

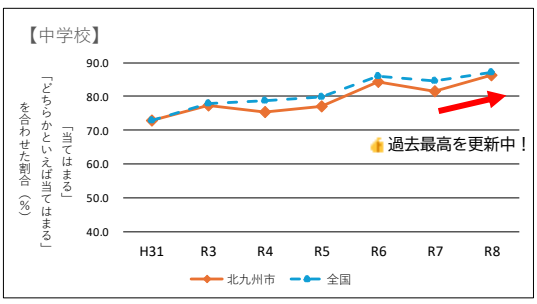


【質問】学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたり（新たな考え方に気付いたり）することができていますか。

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	73.6	79.1	78.4	79.4	85.8	83.3	86.5
全国	74.1	78.8	80.1	81.8	86.8	84.9	85.7



	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	72.9	77.3	75.4	77.1	84.3	81.6	86.2
全国	72.8	77.8	78.7	79.7	86.1	84.7	87.0



○自ら考え、対話する授業へ！
友達と対話し、考えを深めている子どもたちの割合が増加し、自分から学ぶ姿勢が着実に育っています。先生の話を聞くだけではなく、課題に向けて自分で考えて取り組んだり、友達と話し合ったりする授業づくりを行っています。

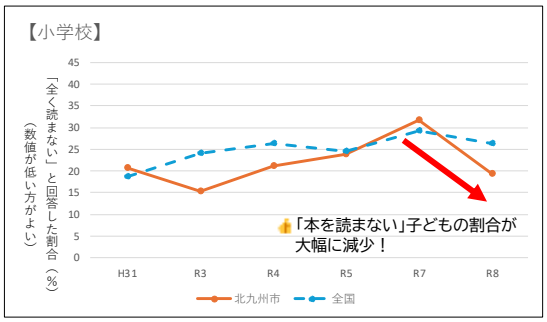
(2)児童生徒質問調査の回答結果の経年推移

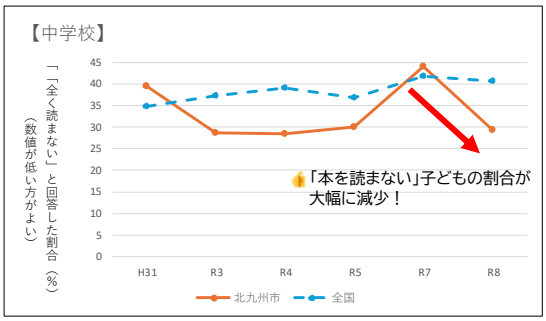
読書について

【質問】学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
（電子書籍の読書を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。　※R6は質問項目がなかったため、省略。

	H31	R3	R4	R5	R7	R8
北九州市	20.7	15.3	21.2	23.8	31.8	19.3
全国	18.7	24.0	26.3	24.5	29.2	26.3

	H31	R3	R4	R5	R7	R8
北九州市	39.6	28.7	28.5	30.1	44.1	29.4
全国	34.8	37.4	39.0	36.8	41.8	40.7





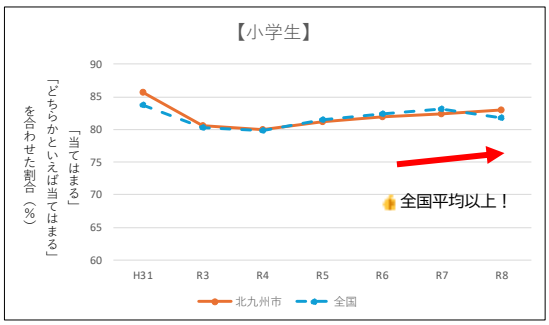
〇本に親しむ子どもが増加！読書習慣がしっかり定着しています
「本を読まない」子どもの割合が、昨年度と比較して大きく改善しています。学校では、図書コーナーの設置や読書時間の確保等、様々な読書推進活動を行っています。学校だけでなく、ご家庭や地域のみなさまとともに、子どもたちが本に親しむことのできる環境づくりを広げていければと思います。

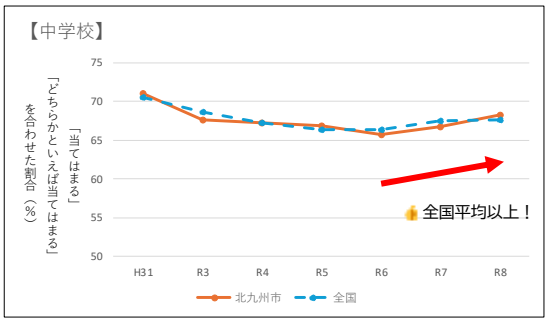
夢や目標について

【質問】将来の夢や目標を持っている。

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	85.7	80.5	80.0	81.1	81.9	82.4	83.0
全国	83.8	80.3	79.8	81.5	82.4	83.1	81.8

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	71	67.6	67.3	66.8	65.7	66.7	68.2
全国	70.5	68.6	67.3	66.3	66.3	67.5	67.6





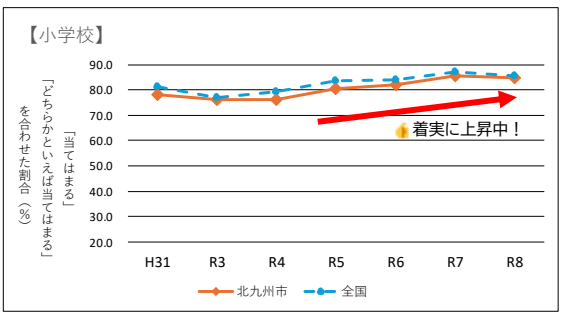
〇未来にわくわく！将来に夢や希望を持つ子どもが増えています。
夢や目標を持っている子どもたちは近年増加し、全国平均を上回っています。自分の将来に明るい見通しをもつことは、日々の生活や学習に向かう大きな原動力になります。様々な体験活動やキャリア教育を通して、「自分の好き・強み」を発見できるように後押ししていきます。

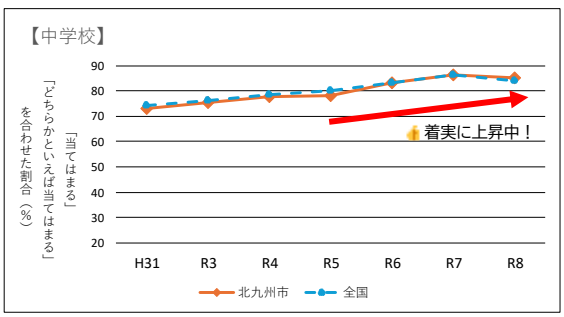
自己有用感・心理的安全性等について

【質問】自分には、よいところがあると思う。

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	78.0	76.1	76.3	80.3	81.9	85.4	84.9
全国	81.2	76.9	79.3	83.5	84.1	86.9	85.6

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	72.9	75.3	77.8	78.1	83.2	86.2	85.0
全国	74.1	76.2	78.5	80.0	83.3	86.2	84.0





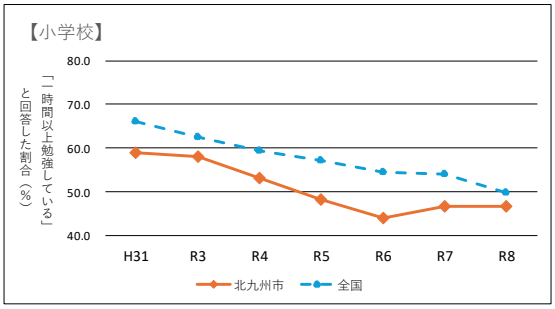
〇自分も友達も大切にできる！安心の環境が育っています。
自分によいところがある、と考えている子どもたちが着実に増加しています。今後も、自分も周りの人も、お互いによさを認め合える学級づくりに取り組んでいきます。

（2）児童生徒質問調査の回答結果の経年推移

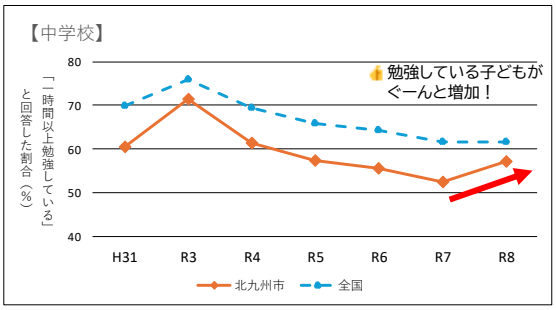
家庭学習について

【質問】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」について、「１時間以上勉強している」と回答した割合

	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	59.0	58.0	53.2	48.2	44.0	46.7	46.7
全国	66.1	62.5	59.4	57.1	54.6	54.0	49.9



	H31	R3	R4	R5	R6	R7	R8
北九州市	60.4	71.4	61.4	57.3	55.6	52.4	57.2
全国	69.8	75.9	69.5	65.8	64.3	61.6	61.7

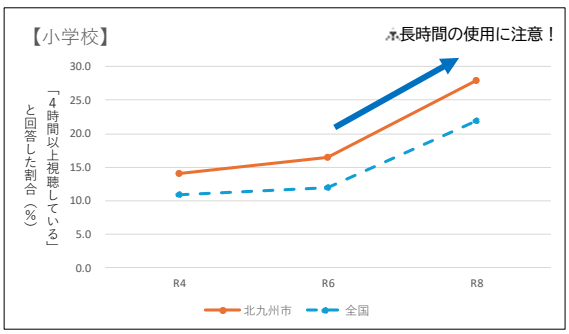


〇中学校での学習習慣の改善！授業以外でも自ら学ぶ力を
小・中ともに全国平均には一歩届かず、さらなる習慣化が必要ですが、中学校においては昨年度と比較して大きな改善がみられています。
学校では自分に合ったペースで学習できるAI型学習アプリ「Qubena（キュビナ）」を活用し、「家庭での学習のきっかけづくり」をサポートしています。

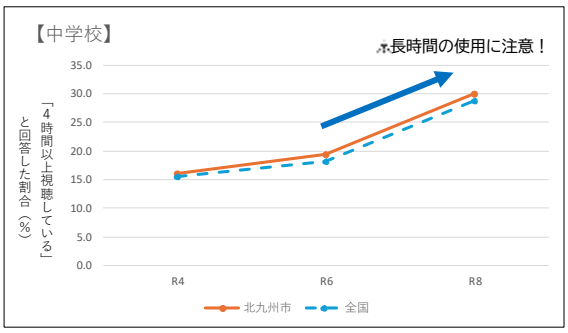
生活習慣について

【質問】普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴をしますか。　※隔年で質問紙調査を実施

	R4	R6	R8
北九州市	14.1	16.4	27.9
全国	10.9	11.9	21.9



	R4	R6	R8
北九州市	16.1	19.5	30.1
全国	15.6	18.2	28.8



●学校と家庭でつくる健康リズム！
SNS等を平日4時間以上見る子どもたちの割合が大幅に増加しており、長時間の使用に注意が必要です。日常の生活リズムや時間の使い方を見直し、規則正しい生活リズムを整えることは、集中力や心の安定を支える大事なエネルギーとなります。学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの成長を支えていきましょう。

４ 今後の取組み



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

今後の取組み

「北九州市こどもまんなか教育プラン」 ＜ミッション3＞
誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める

北九州市がめざす学力向上
～「確かな学力」と「豊かな人間性」～

【基礎・基本の定着】 AI型学習アプリ「Qubena（キュビナ）の活用」

AI型学習アプリ「Qubena（キュビナ）」を活用して、子どもたちの一人ひとりの得意や苦手、習熟度に合わせた「オーダーメイドの学び」を推進し、基礎学力を自分のペースで確実に身に付けるとともに、自ら進んで学習する習慣づくりを応援します。

【考える力の育成】 学びを深める授業改善

解決すべき問いをつかみ、身に付けた知識をもとに、自分で考えたり、友達と話し合ったりする「主体的・対話的で深い学び」を展開し、学びを深め、考える力を伸ばします。

【学びの土台】 読書活動の推進

日常的に本に触れる環境を整え、文章を正しく読み解く力や言葉の力を伸ばすことで、学びの土台を作ります。

【これからの具体的な取組み】

1 「AIでぴったり！」
子どもの「できた！わかった！」を増やすAI型学習アプリ「Qubena（キュビナ）」の活用

♦ 一人ひとりに合わせた自分専用ドリルで「オーダーメイドの学び」を
・AIが子どもたち一人ひとりの解答状況を分析し、つまずきの原因となった内容までさかのぼって出題でき、一人ひとりの学力の定着を支援する。
・子どもたちが「わかる喜び」を実感し、自分に合った学び方を自分で選ぶ「自律的な学習者」となる子どもの育成を図る。

♦学校や家で、「毎日少しずつ」 学習習慣づくり
・「ちょっとしたすき間時間」も「集中して取り組むじっくり時間」も、子どもたちが自分のペースに合わせて学ぶことができ、毎日学習に向かう習慣を後押しする。

2 毎日の授業をもっとわかりやすく、おもしろく 授業づくりのさらなる推進

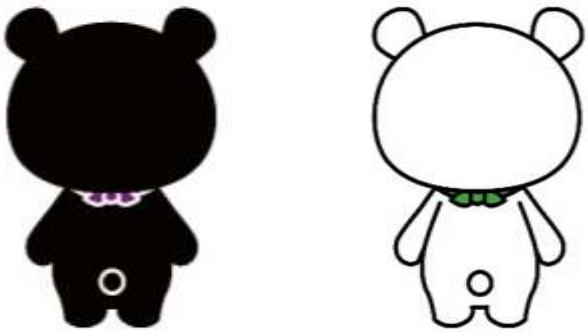
♦子どもたちの「得意」や「つまずき」を踏まえた授業改善
・「全国学力・学習状況調査」や「質問紙調査、アンケート」の結果を踏まえ、学びの基盤となる「読解力」「根拠をもって説明する力」等の一層の定着・向上のため、各学校でも自校の傾向の分析を行い、授業改善に活かすことができるように支援する。

♦生成AIパイロット校事業の推進
・ 先生の指導力向上に加え、子どもが生成AIと主体的に対話し、思考を深める「パートナー」として活用できる授業研究を展開する。

3 「学びの環境」を整える

♦読書活動の推進
・「学校まるごと図書館」や「わくわく学校図書館」等、日常的に本にふれる環境づくりや読書習慣づくりを引き続き行う。

♦子どもや保護者向けの学びイベントと体験の充実
・「みらい探求教室」や理工系人材育成事業等、多様な子どもの興味・関心に基づいた教育の場を幅広く提供する。



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書

発　行　　北九州市教育委員会　学校教育部

事業調整課　学力向上担当班

〒803-8510

北九州市小倉北区大手町１番１号

TEL　093－582－3447

FAX　093－581－5873